

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4191200080
法人名	(有)九州メディカル・サービス
事業所名	グループホーム「安心」いちたけ
所在地	三養基郡みやき町大字市武1234番地 (電 話) 0942-96-4737

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番8号		
訪問調査日	2009年3月27日	評価確定日	平成21年6月8日

【情報提供票より】(平成21年3月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 1人, 非常勤 14 人, 常勤換算	4.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	2階建ての1階～ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000円		その他の経費(月額)	円
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200円	

(4) 利用者の概要(3月 27日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	8 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.7 歳	最低 66 歳	最高 94 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団如水会 今村病院・みねクリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、みやき町の南部に位置し、周りには民家やクリニック、コンビニ、公園、グラウンド、行政機関等が点在している。広い敷地で、日当たりや見晴らしも良い環境である。職員は入居者と温かい家族のような関係づくりを目指しており、入居者の意向を尊重した支援に取り組んでいる。ホーム近くにある神社の草むしりを地域の方と一緒にしたり、地域の行事に参加したり、交流を深める取り組みを続けている。入居者が散歩をするときに顔なじみになった地域の方がホームを尋ねて来られるなど地域の一員としての生活を支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善事項とされた、日中の玄関の鍵をかけない支援への取り組みについては、外出や通院の介助等で職員の数が少なくなる時には、施錠することもあるが、利用者の状況を考えながら、開錠時間を長くする取り組みが行われている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者も職員も自己評価の意義を理解しており、全員で評価を実施している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、今年度は2回実施した。出席者からは、活発に意見交換がなされ、意見をサービスの向上に役立てている。今後は、2ヶ月に1回の会議開催を予定している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に、面会時に声をかけ、苦情や要望を気軽に話せる関係づくりに努めている。玄関に意見箱を設置し、またアンケート調査を実施し、家族から出された意見は全職員で話し合い、サービスに反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	祭りや区役、文化祭に参加したり、利用者が希望すれば老人クラブに参加できるように支援するなど、地域との交流に取り組んでいる。地域住民が利用者を尋ねて来られることもあり、日常的な交流は深まりつつある。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「いかなる時も、入居者本位の運営を行い、元気で楽しく生きがいのある生活を支援します」を理念としている。また、明文化はされていないが、地域に根ざす取り組みが実施されている。	○	開設当時の理念から、地域密着型サービスの役割を反映した理念の見直しが検討されており、地域や利用者のニーズ等の現状にあった理念作りを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、全職員で唱和することで理念の共有化に努め、日々の入居者との関わりの中で、理念に沿ったケアが出来るよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の区役や、文化祭などにも参加している。散歩などを通じ顔馴染みになった地域の方々が、ホームに尋ねて来られるなど、地域での普通の生活を目指している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ケアの振り返りや見直しの良い機会として、自己評価に全職員で取り組んでいる。外部評価の結果についても、サービスの質の向上に活かしていこうとする姿勢が窺える。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際や改善課題について話し合う中で、出席者のほうから火災訓練時の参加への申し出があった。その他にも活発に意見が出され、会議の内容がサービスの質の向上に活かされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に市町からの出席が得られないことから、管理者は直接出向き、相談出来る関係があり、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1回ホーム便りを作り、家族に郵送し、暮らしぶりや職員の異動等を伝えている。健康状態が変わったことがあれば、個々に電話で連絡したり、面会時にも近況を知らせるようにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱が設置してある。また、アンケート調査を行い、その結果を運営推進会議や全職員で話し合い、出された意見をサービスの質の向上につなげるよう取り組んでいる。改善事項はホーム便りに掲載して公表している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職は少ないが、その時の入居者の反応を全職員で予想し、入居者の動揺が少ない方法を取るように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部での研修にも積極的に参加している。また、同法人内では毎月、各職種ごとの研修が行われており、研修報告をパソコンのメールで確認するシステムが作られている。管理者は、研修内容を確認し、全職員が閲覧し学んでもらうことを実行している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係法人内のグループホームで勉強会や相互訪問をしている。管理者は地域の同業者とも交流や情報交換を行い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来てもらったり、入居時には全職員が入居者の情報を十分に共有し、迎えるなど、入居後に戸惑うことのないように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が発案して入居者に教えてもらいながらの漬物作りや干し柿、おはぎを作るなどして、楽しんでいる。利用者の希望で、散歩や花見に行くなど、お互いを楽しく刺激し合い、支え合う関係が出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶の時間などに、一人一人と話し合い、ふれあう時間を多くもつよう意識して取り組んでいる。会話やふれあいの中から、本人の意向を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の思いを反映した介護計画となるよう本人や家族と話し合い、主治医の意見を聞いた上で、全職員が意見を出し合い介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回、見直しを行っている。退院時など状態が変わったときにも適宜、見直しを行っている。主治医等に意見を聞き、本人や家族と十分に話し合い、全職員で考えて現状に即した計画を作成している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、通院や外出の介助をしている。また、医療連携体制を活かして、健康管理や終末期の看取りなど、柔軟な対応が出来ている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人および家族の希望するかかりつけ医となっている。希望や必要に応じて、受診の送迎を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針が作成されており、入居時に管理者が説明し、同意を得ている。さらに状態の変化があるごとに家族やかかりつけ医等と繰り返し話し合い、その方針を全職員で共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	研修やミーティングの際、全職員の意識の向上を図ると共に、日々の関わり方を管理者が点検し、利用者のプライバシーを損ねない言葉遣いや接し方の対応の徹底が図られている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大体の流れはあるが、散歩や買い物等、個々の希望や体調も考慮し、柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	事前に入居者全員の嗜好を聞いており、メニューによっては代替の品を提供している。希望に応じて出前や外食の支援もなされている。テーブル拭きやお茶の準備を日課や役割とされている利用者もあり、職員も一緒に食卓を囲んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者は、毎日でも入浴が出来る。日中の大半の時間を入浴時間として、ゆっくりと入浴できるようにしている。気の進まない利用者にもうまく声かけや誘導をして、無理なく入浴出来ている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ひとりひとりの生活歴や力を活かした支援に取り組んでいる。日めくりカレンダーの掛け替え、手すり拭きなどを自発的にしたり、折り紙やスポーツ観戦を楽しんだり、愛犬と一緒に入居も受け入れている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ひとりで散歩に出かけることを日課とされている人がある他、介助で散歩やドライブに出かける等、日常的に外出の支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵はついていない。玄関の鍵については、その日の利用者の状態を考えながら、開錠時間を長くする取り組みが行われている。又、のれんに鈴を付けてあり、出入りの際、音でわかるように工夫されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急通報システムが設置されており、夜間は1階2階にそれぞれ1名ずつの職員が配置されている。屋外の避難場所も確保できている。今年度は年1回、簡単な防災訓練を実施した。	○	特に夜間等における職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加を得た訓練の実施も期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスが考慮された食材の宅配を利用している。同じ食材を使って、入居者に合わせて内容を変更している。食事の時以外にも、お茶の時間をとるようにしており、水分量も考慮されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂には、利用者の手作りの品や催事の写真が飾られている。窓が大きく、ホーム内は明るい。不快な匂いや音もない。入居者は、それぞれに、自分の気に入った場所を持ち、くつろいで生活をされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや思い出の品を持ってきてもらうように家族に依頼している。一つでも、それぞれの思い出の品物が側にあることで、安心して過ごせるよう支援している。		